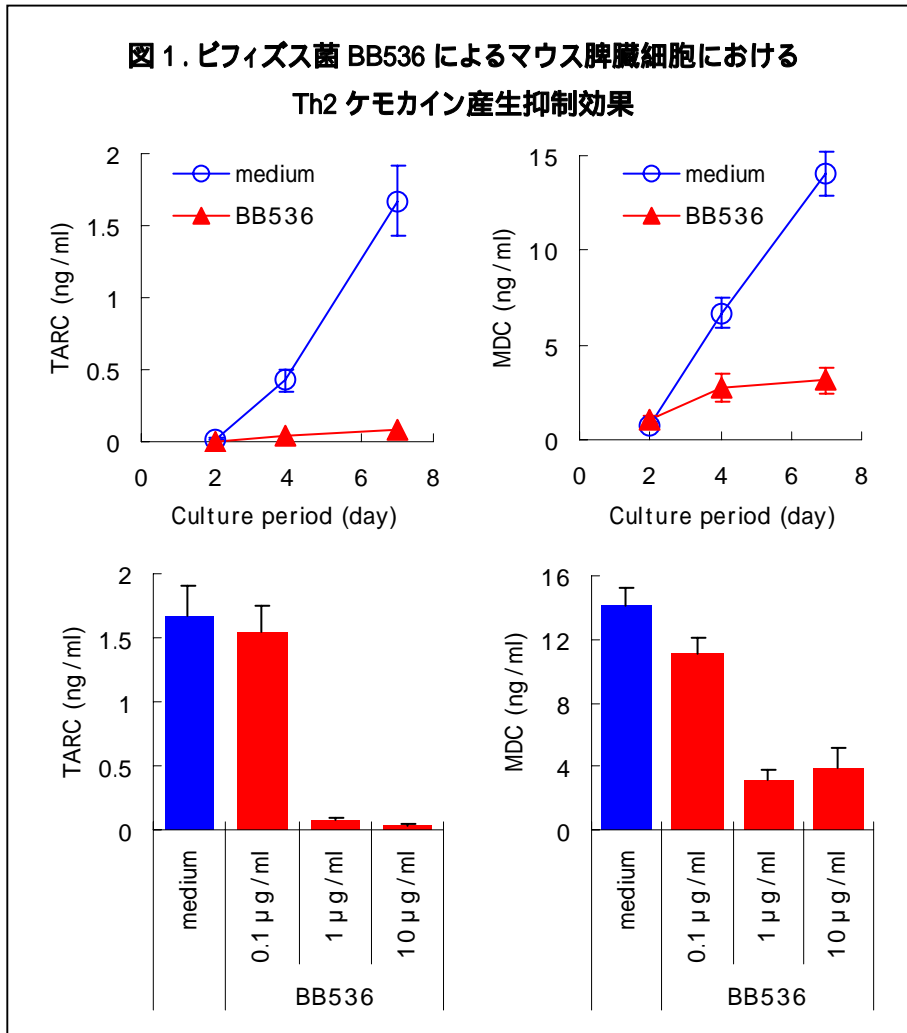
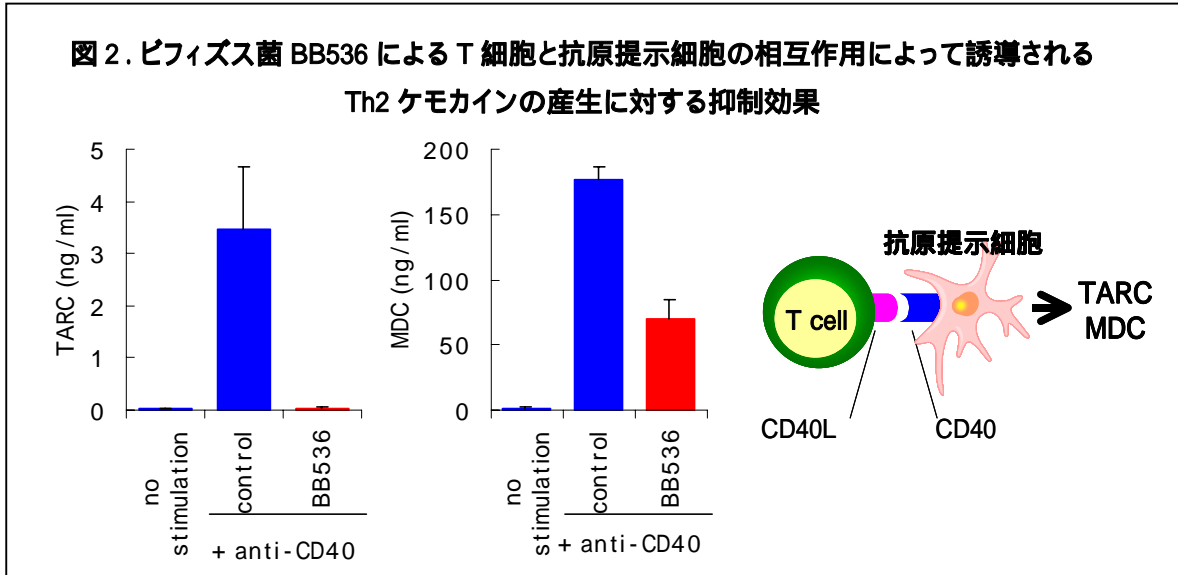


[試験結果]

BB536 は、脾臓細胞から産生される TARC と MDC を濃度依存的に抑制しました。(図 1)



脾臓細胞から産生される Th2 ケモカインは、T 細胞から刺激を受けた抗原提示細胞が産生し、BB536 は T 細胞と抗原提示細胞の相互作用によって誘導される Th2 ケモカインの産生を抑制しました。(図 2)



以上の結果から、抗原提示細胞が T 細胞と相互作用することで産生する Th2 ケモカイン(TARC、MDC)を、BB536 が抑制することが明らかになりました。

(参考)

[調査の背景：森永乳業のこれまでの花粉症症状改善の研究について]

森永乳業では、2004年からビフィズス菌BB536が花粉症の不快症状にどの程度改善効果を発揮するのか、ビフィズス菌BB536含有のヨーグルトを使って検証し、ビフィズス菌BB536含有のヨーグルトを摂取したグループでは、鼻や目などの自覚症状が改善されたほか、花粉症関連の血中マーカーインターフェロン- $\gamma$ の低減や好酸球比率の上昇が抑制されるなど、免疫機能も良好な状態を維持できていました。

2005年の研究では、ヨーグルトではなく、BB536の菌末を使って、BB536単独の抗アレルギー作用について検証し、花粉が大量に飛散している状況においても、ビフィズス菌BB536そのものが持つ整腸作用と免疫調節作用が、体内免疫バランスの改善や花粉症の症状の軽減に作用していることが示唆されています。

ビフィズス菌BB536とは・・・

長年にわたる独自の研究から、ビフィズス菌BB536(ビフィドバクテリウム・ロンガムBB536)は、健康なヒトの腸管より発見されました。また、ヒト由来のビフィズス菌として、酸や酸素に強く、生きたまま腸に届きやすいのが特徴です。

整腸や感染防御、免疫調節など多くの機能を発揮する優れたビフィズス菌であり、森永乳業ではこのビフィズス菌BB536を多くの商品に使用しています。



(ビフィズス菌BB536)

本件に関する報道関係者のお問い合わせ先

森永乳業株式会社 広報 IR 部 相川 TEL:03-3798-0126